



## Fukushima Daiichi nuclear disaster : 福島原発事故とその余波

文化学園アカデミックアーカイブセンター製作・著作  
2012



## 世界が見た福島原発災害 —海外メディアが報じる真実—

大沼安史著  
緑風出版 2011

経済学部教授 土屋 昌明

きみは覚えているかな？福島原発事故がおこったのは2011年3月だから、いま18歳の人が中学生だったときのことだ。

あーあ、とうとう原子力発電所の事故がおこってしまった。放射性物質は、確実に肉体をむしばむ。こわいのは、放射線の障害はガンとか、普通の病気のかたちで出る。そんな放射性物質は、東北と関東だけでなく、長野県にまで降り、現在でも残留しているんだ。

それにしても、私たちがこの問題についてあまりよく知らない、というのはどうなんだろう。

私が中学生だったころ、学校の授業、クラブ活動で、くたくただった。社会でおこったニュースなんて一つも覚えてない。たぶんみんなそんなもんだろう。

しかし、いまは大学だ。まずもって市民として、みんなが幸せな社会を築くのに協力できるような知性と教養を育てよう。その点で、いま注意すべきなのは、原発問題だ。

原発問題に注目して世の中を見ると、経済・政

治・文化・国際関係など、いろいろな分野のメカニズムが見えてくる。

では、どうやって原発問題に注目するか？一番簡単なのは、ドキュメンタリー映画を見ることだ。ドキュメンタリーは、とりあえずドラマと違って、登場する場所・人物・語りは作り物ではない。まず見て、疑問に思ったら、その関係の本に進む。

たくさんの映画監督が、この問題に取り組んでいる。どれでもいい、片っ端から見ればいい。でも、ここにとりあげた映像には一つ特徴がある。それは、福島を海外ではどう報道したかがわかる点だ。つまり、国際的な視野で福島のことを見られる。と言うのは、私はよく覚えているが、事故がおこったとき、日本政府はそれを隠そうとし、メディアも隠すのに協力したんだ。なので、私のような外国語の教師は、海外の報道を日本語に翻訳して、国内に紹介したりした。

この際、原発問題を外から見ながら考えてみるのもいいんじゃないか。ついでに、英語の勉強にもなりますよ。